



陸奥国骨寺村絵図【複製】(原資料 中尊寺蔵 重要文化財)

### 骨寺村荘園ブース

平泉中尊寺の経蔵別当領として平安時代末期から室町時代初期まで約三百年にわたって経営された骨寺村。中尊寺の荘園として重要な経済的基盤であり、関連する古文書が残されてきました。また、荘園経営の中で描かれた絵図は、農業、宗教、景観など当時の村の様子を余すところなく伝えています。

中尊寺を支えた中世荘園としての骨寺村を、その始まりから終わりまで紹介します。

### 一関市博物館ご利用案内

#### ●休館日

毎週月曜日(祝日の時は翌日)  
年末年始  
資料整理のための休館日

#### ●開館時間

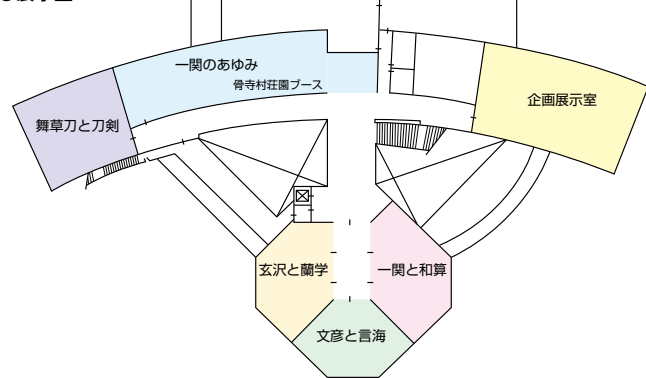
午前9時から午後5時まで  
(入館は4時30分まで)

#### ●入館料(〔団体〕は20名以上)

一般……………〔個人〕300円 〔団体〕1人につき240円  
高校生・大学生 ……〔個人〕200円 〔団体〕1人につき160円  
小・中学生 …… 無料

※障がい者・介護者の方(障がい者手帳等提示)、65歳以上の一関市民の方(証明書等提示)は免除

#### ●展示室



※写真・掲載資料については、展示替えの場合があります。

### 各交通手段と所要時間

#### ●JR東北新幹線

東京⇄一ノ関 約1時間54分  
盛岡⇄一ノ関 約37分  
仙台⇄一ノ関 約21分

一関市博物館まで  
一ノ関駅から車で約17分(9km)  
※一ノ関駅から路線バスで約20分  
(巖美溪バス停下車、徒歩約7分)

#### ●東北自動車道

浦和IC⇄一関IC 約4時間30分(420km)  
仙台宮城IC⇄一関IC 約1時間(88km)  
盛岡IC⇄一関IC 約1時間(92km)

一関市博物館まで  
一関ICから車で約7分(5km)

(表示した所要時間は、ご利用される時間や時期等により異なります)

# 一関市博物館

ICHINOSEKI CITY MUSEUM

〒021-0101 岩手県一関市巖美町字沖野々215番地1  
Tel 0191-29-3180 Fax 0191-33-4006

一関市博物館 検索

# 一関市博物館

ICHINOSEKI CITY MUSEUM

栗駒山あえかの雪さをりえをり  
あえかの雪を流しをり  
天は銀のいらわち 白びかり  
宮田賢治

### ●通史展示



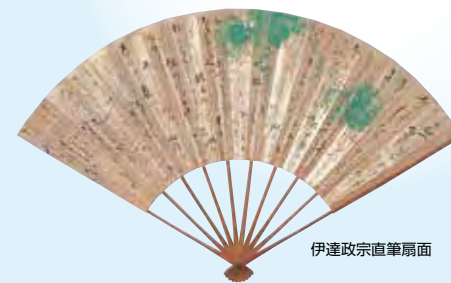
過去から未来への展望

## 一関のあゆみ

- 原始の一関
- 古代の一関
- 中世の一関
- 近世の一関
- 近代の一関
- 現代の一関



コノハスク形土製品



伊達政宗直筆扇面

北上川・磐井川の川辺に展開する縄文・弥生の人びとのくらし。中央の軍勢に反発しながら独自の文化を開花させた古代蝦夷と平泉藤原氏。往時の姿を絵図と景観で現代に伝える中世荘園骨寺村、中世の支配者葛西氏。仙台藩とその支藩一関藩のもと、村や町が形成され現代につながる地域の姿があらわれてきた近世。明治維新後岩手県に編入され、地域のアイデンティティーを模索してきた近代。たびかさなる災害から懸命に立ち上がり発展を目ざしてきた現代。

地域のあゆみをふりかえりつつ、視点は未来へとつながっていきます。

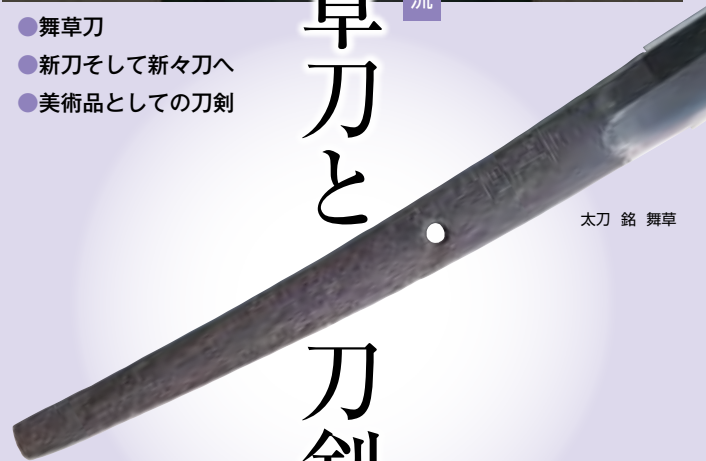




日本刀の源流

# 舞草刀と 刀剣

- 舞草刀
- 新刀そして新々刀へ
- 美術品としての刀剣

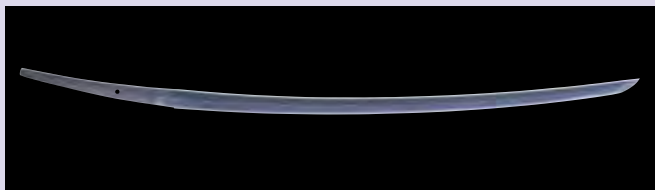


太刀 銘 舞草

日本刀は平安時代に完成しました。ここ、一関周辺で作刀を続けた舞草鍛冶は最も古い鍛冶集団のひとつであり、彼等が生み出した舞草刀は日本刀の成立と発展を語るうえで欠かすことができない刀剣です。

また、近世には一関を領していた仙台藩と一関藩の地元の刀工たちが活躍しました。

一関にゆかりのある刀剣や刀工を、時代を追いながら紹介します。



太刀 銘 舞草



# 玄沢と蘭学

蘭学者大槻玄沢の業績

- 郷師・建部清庵
- 蘭学階梯
- 芝蘭堂の世界
- 蘭学の究明
- 蘭学の展開



蘭学階梯 大槻玄沢著

大槻玄沢は蘭学者として、歴史に大きな足跡をしるしています。蘭学とは、江戸時代の中頃(18世紀後半)、『解体新書』という解剖書の出版をきっかけとしてさかんになった、本格的な西洋研究のことです。

蘭学は、一関出身の大槻玄沢によって大きく飛躍・発展し、日本の近代科学の発達にはかり知れない影響をあたえました。

大槻玄沢の業績と蘭学の世界を紹介します。



芝蘭堂新元会図 [複製] (原資料 早稲田大学図書館蔵 重要文化財)



# 文彦と言海

近代的国語辞書の著者

- 大槻家の人々
- 心のふるさと一関
- 言海の誕生
- 言海完成祝賀会
- 言海以後の文彦の業績



大言海底稿

明治になり、近代的な国づくりのために、国語の確立が強く求められました。それは、西洋の知識が入ってきたことや、実際の海外体験の結果でした。

この難題に国語辞書編さんというかたちで取り組んだ人に大槻文彦がいます。彼は、辞書作りをとおして、試行錯誤をくりかえしながら国語の基礎を作り上げていきました。

大槻文彦の生涯と業績を紹介します。



『言海』初版 合冊本・四冊本



# 一関と和算

和算隆盛の地

- 和算の歴史
- くらしの中の算術
- 算額の世界
- 一関の和算家たち
- 和算と遊ぶ



算法新書 長谷川寛閑 千葉胤秀編

江戸時代の日本では、外国の影響を受けずに数学が発達しました。漢字とかなを使って縦書きであらわす数学です。これを「和算」といいます。

一関周辺の神社やお寺をたずねると、幕末から昭和のはじめ頃までに奉納された算額を、今もみることができます。そこにあらわされた問題は、当時のこの地方の人びとが考えだしたものです。

千葉胤秀をはじめとする一関の和算家たちの業績と和算の世界を紹介します。



一関八幡神社算額 [復元]